

コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

岡山県は指導資料の「宝庫」？

昨年まで全国の学校や教育委員会を訪問させていただく中で、「岡山県の〇〇（資料名）はスゴイですね」「岡山県教委さんのHPは宝の山です」との声をいただくことが度々あり、とても嬉しく感じました。当課が作成した「長期欠席・不登校対策スタンダード」や「起立性調節障害（OD）対応ガイドライン」等を参考に、独自の資料を作成される自治体も増えています。

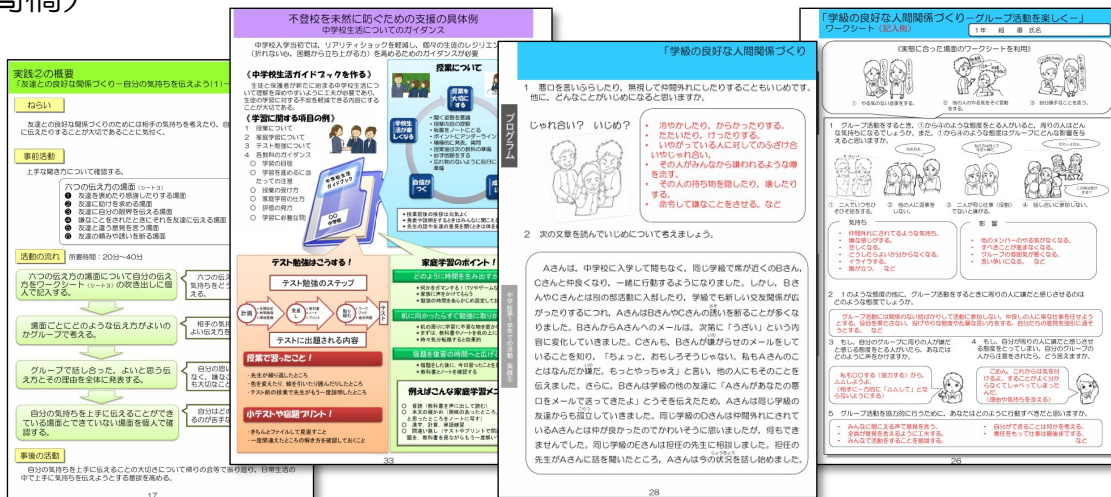
今回（本文で）ご紹介した「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」もその一つ（P.2二次元コードからダウンロード可）。児童生徒が実際に感じている「不安」や「戸惑い」等に関する調査結果の紹介と、児童生徒を支援するためのプログラムを、小学6年生（中学校0年生）、中学1年生（小学校7年生）別に示しています。各プログラムの指導方法をまとめた資料とそのまま印刷して使えるワークシート

（記入例付き）、さらには不登校を未然に防ぐための支援の具体例などを示した校内研修に使用できる資料などで構成された、本当に使い勝手の良い資料となっています。もちろん、プログラムの効果検証もちゃんとされています。ご紹介のタイミングが少し遅い気もしますが、まだ、間に合いますよ。

（高橋）



その他の総合教育センター
調査研究成果物はコチラ



『中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム』の例

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/>



Vol.22

発行日 令和8年1月

岡山県教育庁 人権教育・生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

「のりしろ」 づくり

間もなく学年末を迎え、進級・進学の時節がやってきます。例えば、不登校の子どもにとって、この進級・進学の時節は、心機一転、一歩を踏み出すことのできるチャンスでもあります。逆に新たな生活への不安や年度明けのギャップに苦しむ時期でもあります。

新年度のスタートをスムーズにするための、「のりしろ」づくりについて考えてみます。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

Q.「中1ギャップ」や「高1クライシス」などを未然防止する対応について、ポイントを教えてください。

A.文部科学省が実施した「平成18年度不登校生徒に関する追跡調査」によると、不登校経験者の高校への進学状況は85.1%となっており、多くの不登校生徒が高校進学を契機に学びへと繋がろうとしている様子が見て取れます。一方で、問題行動等調査によると、不登校・中退ともに高校1年生の出現割合が、他の学年と比べて多く、入学後に不応適状態に陥る可能性は高いことが分かります。進級・進学のタイミングは、多くの児童生徒にとって、心機一転、環境をリセットできるチャンスであると同時に、環境の変化がピンチにもなり得ると言えます。校種間で児童生徒の環境はどのように変わるのでしょ【図1】。

- **学校システムの変化**
 - ・ 学級担任制→教科担任制、所属教室中心→教室移動、課題の量や提出期限 など
 - **教員集団の変化**
 - ・ より多くの教員との関わり、学年団と部活顧問、分掌別の担当教員 など
 - **存在の位置づけの変化**
 - ・ 学校の代表→新入生
 - **他の集団との出会い**
 - ・ 気心の知れた集団→知合いの少ない（少ない）集団、HR以外の集団
- 「ギャップ（変化）」＝連携のポイント**

【図1】校種間ギャップの例

児童生徒が感じる「不安」と「戸惑い」

「みなさんは、今日から中学生（〇年生）です。頑張りましょう。」と、始業式や入学式で声をかけておられることでしょう。節目を大切に、一歩成長することを期待しての声かけです。児童生徒も気持ちを新たに学校生活をスタートする訳ですが、この教師（大人）からの声かけの裏で、児童生徒は学校生活のどのようなことに「不安」や「戸惑い」を感じているのでしょうか。

少し前になりますが、平成26年度に岡山県総合教育センターが調査した結果（※）によると、小学校6年生が抱く中学校生活への不安の第一位は「勉強」、次いで「友達」「先輩」となってい

ます。そして、中学校入学後に実際に感じる戸惑い（リアリティショック）の第一位は「テスト・成績」、第2位が「授業」となっています【表】。また、リアリティショックの第6位は「勉強や部活動が忙しく、ゆっくり休めないこと」となっており、小学校とは異なる中学校生活に多忙感や戸惑いを感じ、実際に疲れている様子がうかがえます。

例示は中学校進学時のものですが、進級のタイミングはどんな児童生徒でも、多かれ少なかれ何らかのストレスがかかっていると考えべきでしょう。

【表】中学校生活への驚きや戸惑い

1位	テスト・成績	「テストが一度にたくさんあること」 「成績がはっきり示されること」
2位	授業	「授業が難しいこと」「一度に習う量が多いこと」
3位	先輩	「上下関係が厳しいこと」
4位	友達	「友達とよい関係でいること」
5位	規則	「決まりやルールが厳しいこと」
6位	多忙・疲れ	「勉強や部活動が忙しく、ゆっくり休めないこと」

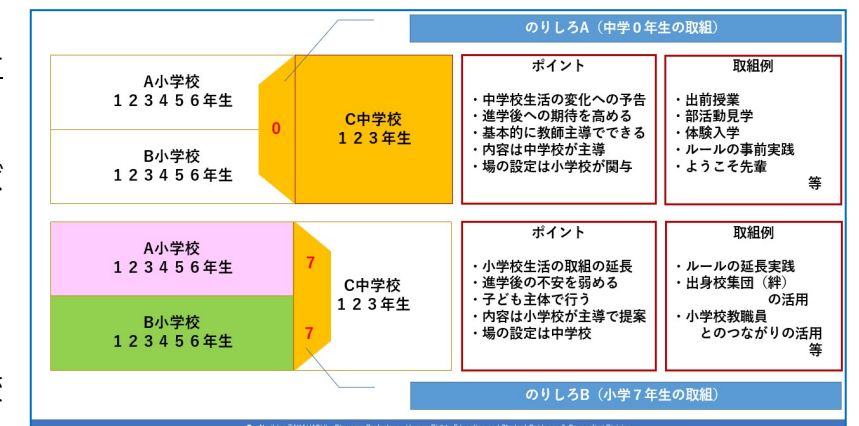
2つの「のりしろ」が必要

この環境が変化するタイミングでの「接続」をスムーズにする必要があります。従前から、中学校入学前の説明会などで、中学校の教師が小学校へ出向き、中学校生活の説明を行っていましたが、それだけでは入学後のリアリティショックに対応するためには不十分である可能性があります。

入学前と入学後、時期とすれば年明けの1月から、大型連休（GW）明けの5月頃までは、どの学年段階においても「移行期」であることを踏まえ、小・中学校（校内なら2学年）双方から2つの「のりしろ」の取組を充実させる必要があります【図2】。中

学校進学時を例に挙げるなら、小6の3学期は「中学校〇年生」、中1の1学期前半は「小学校7年生」という意識で児童生徒を支援することがポイントと言えるでしょう。

「授業」「勉強」への不安や戸惑いを解消するには？



【図2】2つの「のりしろ」を意識した取組

POINT

実際の「不安」「戸惑い」に即した支援策が重要
学校・学年間の相互の「のりしろ」づくり

進級・進学時の
ギャップ（変化）
こそ、連携のポイ
ント



『プログラム』の
ダウンロードはコチラ

